

ロジスティクス最前線/関東版 特集

「送料無料」言葉が野放し



波田 雅文氏

大島 それでは最後に、今後に向けた取り組みや課題などについてお願いします。

太田 桐 今後、需給ギャップが発生する中で、政府が進める「働き方改革」と一緒に、「運び方改革」を受け取り方改革を進める必要を感じています。運び方改革として、生活インフラである新聞販売店やクリーニング店を配送拠点とし、既存の配達網を活用して商品を届けるようにする事を検討しています。受け

受け取り方改革を推進 太田桐
届け先の環境が不十分 波田

ラストワンマイル輸送の展望

通販拡大、物価安を誘導 波田
物流重要性理解に兆し 伊藤

伊藤 淳氏

(〇面から続く)

志村 ネット通販の拡大で「送料無料」という言葉が野放しになりました。本来は無料ではないのに、荷主や消費者が真に受け、購入の時に送料を気にするようになり、送料が全額売れないみたいなので、荷



志村 直純氏

主は送料無料でござわっているように。

大島 私も送料無料という表現が無くなるよう訴え続けていますが、送料無料で掲げること自体は法違反にならないようです。送料が無料のはずはないので、「送料当社負担」「送料込み」と改めるようずっと言っていますが、かきまかせ

も不在だったり、駐車禁止の問題があったりするなど、届け先の環境がいまだに良くないと思います。荷主や受け取る側が、ラストワンマイル輸送のドライバーの気持ちを考慮して欲しいと思います。

伊藤 ドライバーの辞めたい環境づくりと、辞めた後のセカンドステージとして働ける環境を与えることを目的に、5月に新たな部署を立ち上げ、整体院とタ

インターネット通販の拡大が物価安を誘導していると思えます。リアル店舗が対抗するには、来客への満足度をいかに高めるのかを考える必要がありますが、しばらくは安さに勝てないように思えます。また、ネット通販の拡大だけでなく、若い世代は買物自体に対する欲が無いように思えます。こうした傾向は、しばらく続くのではないのでしょうか。

伊藤 ネット通販の拡大という流れは変わらないと思います。今回の西日本の豪雨でインフラがストップしましたが、消費者は本当に物流の重要性を認識しているのかな、と感じています。一方で、ヤマト運輸の値上げなどで少しづつ兆しは出ているようにも思いますが、



太田桐 聡氏

取り方改革は、利用者の意識改革を意味しています。自宅へ配達してくれるというところは便利ですが、一方で、利用者が「受取時間を指定していたとしても、荷物を待っている間の時間を有効活用できない」という声もあります。昨今、受取場所のインフラ(ロッカーなど)が整備されつつあり、利用者の生活動線にある受取場所、都合の良い時間に出向いてもらうことで、受け取る側の問題が解決できることも

広域で他事業者と連携 志村
企業間協力体制構築へ 大島

志村 人口減少時代に対応していくには、大手はM&A(合併・買収)などが考

えられますが、我々は資金がありません。顧客からは、域で他の事業者と連携していく必要があります。その



大島 弘明氏

ための協組でもあります。大島 大手事業者においても同業他社と手を結ぶという動きになっており、人手不足の中、企業間の協力体制はこれからますます構築されるのではないのでしょうか。消費者の生活をサポートするものが、ラストワンマイル輸送を担う皆さんの仕事。その立場だからこそ、物流が持っている良くないイメージを変えていく面もあると思います。

トラック運送事業者が6万者以上ある中、ここでお話いただいたような努力が業界全体に波及していけばいいなと感じました。本日はありがとうございました。

(土屋太朗、佐々木健、吉田英行が担当しました)

私たちは、物流と、生活を支えるエネルギー販売のネットワークを拡充し、選ばれる企業を目指します。



太陽鉱油株式会社
東京都中央区日本橋人形町3-8-1

(面担 吉田周作)

地域に寄り添い、
「食」の未来を輝かす。

私たちが、いま取り組んでいるのが「地域密着 全国卸」。

地域に根ざした食文化やニーズを的確にとらえ「地域の食」をリード。

これからも、もっと身近で、もっと頼れるパートナーとして。

KOKUBUが培ってきた全国卸機能を、より高いレベルで発揮します。

食のマーケティングカンパニー
KOKUBU
www.kokubu.co.jp